

Simon Croft talks about Australian Metal

訊き手●藤木昌生／本誌

8月下旬まで東京で上演されて好評だったミュージカル『WE WILL ROCK YOU』のキャストやスタッフは主にオーストラリアの人々だった。その中で、生演奏バンドのギタリストを務めていたサイモン・クロフト氏はヴェテランのハード・ロック・ミュージシャン。日本滞在中の彼に「オーストラリアのメタル・シーンの歴史について話を聞かせてもらえませんか?」と打診してみたところ、喜んで応じてくれた。

——オーストラリアで最初のヘヴィ・メタル・バンドという誰になるのでしょうか?

サイモン・クロフト(以下S): 僕が覚えている限りでは、1972年に登場したBUFFALOがそうだったんじゃないかな。彼らは何度かメンバー・チェンジをしたけど、そのうちの何人かが後にROSE TATTOOを結成したんだ。BUFFALOの音楽性はBLACK SABBATHからの影響を感じさせるヘヴィなもので、大衆は彼らのサウンドを好んでいたけど、ラジオではかからなかった。よくあるパターンだね。1976年か1977年にRAINBOWの前座を務めた後、彼らは解散したはずだ。

——80年代にはヘヴィ・メタルが世界中で大衆の支持を得ましたが、オーストラリアでも同様でしたか?

S: そうだね。80年代にはオーストラリアでもLAの“ヘアー・ロック”が人気だったよ。ただ、日本に比べたら、ツアーでやって来るバンドは圧倒的に少なかったと思う。80年代前半にやって来たバンドはDEEP PURPLEとIRON MAIDENとTWISTED SISTERだけだったし、80年代後半から90年代初頭にかけてもGUNS N' ROSES、MÖTLEY CRÜE、SKID ROW、WARRANT…それくらいだった。オジー・オズボーンがソロになって初めてオーストラリアに来たのが1997年だったくらいだからね! 70年代の方が良かったんじゃないかな。70年代にはDEEP PURPLE、FREE、URIAH HEPP、BLACK SABBATH、BAD COMPANY、STATUS QUO、LED ZEPPELINがみんな来てくれたんだから。

——80年代のオーストラリアのメタルというと、HEAVEN、BOSS、CHEETAHらのアルバムが日本でもリリースされました。彼らは本国では成功していましたか?

S: ライヴを観に来る熱心なファンは確かにいたけど、彼らもやっぱりラジオで曲をかけてもらえなくて苦戦していたね。HEAVENはそのうちLAに拠点を移したけど、AC/DCの後継者にはなり得なかった。アメリカでツアーをやって頑張ってたけど、それも長くは続かなかった。BOSSはシドニーから外に出ようと苦闘していたけど、上手いかなかった。良いバンドだったのにな。

TWISTED SISTERのメルボルン公演で彼らが前座を務めたのを観たけど、すごく良かったよ。CHEETAHはあまりライブ活動はしてなかったんじゃないかな。彼らは英国に拠点を移したけど、やっぱり上手いかなかったようだ。

——オーストラリアのメタル・バンドというと、誰もがAC/DCの名を挙げますが、今でも彼らはNo.1の存在ですか?

S: おかしいのは、オーストラリアでは未だに多くの人々がブライアン・ジョンソンのことを“ニュー・シンガー”って言うんだ!(笑) ボン・スコットは今でも人々に愛され、そして惜しまれてるんだよ。まあ、いずれにしても彼らは我々の英雄だ。8年間もオーストラリアでプレイしない時期があったとしてもね! 1980年にプレイした後、次に彼らがオーストラリアにやって来たのは1988年だったんだから。

——90年代にはグランジ/オルタナティブ・ロックが世界のロック・シーンを席巻しました。オーストラリアではどうでしたか?

S: 勿論同じことが起こったよ! 90年代にメタルやハード・ロックをやった連中は、1回でもライブをやるチャンスがあればラッキーだと思えたらいいさ。あのムーヴメントはいとも簡単にオーストラリアのメタル・シーンを破壊したね。

——でも、そんな90年代においてもDUNGEON、ROXUS、リック・ブライスといった優れたメロディック・メタル/ロックのアーティストがいましたよね?

S: 確かに彼らは人気があったよ。5分間くらいはね! いや、マジな話、オーストラリア国内にいるファンの数だけじゃ、彼らはしっかりキャリアを築き上げることが出来なかった。オーストラリア出身のアーティストで成功した連中ってのは、結局は祖国から外に出て成功を掴んだんだ。AC/DCやボブ・ディズリーのようにね。

——2000年代に入ってもDUNGEON、BLACK MAJESTY、VANISHING POINTといったメロディック・メタル・バンドは良質の作品をリリースして頑張っています。彼らは本国で認められていますか?

S: 今君が挙げたような連中は、オーストラリアから出てワールドワイドなリスナーを掴む必要があると思う。国内にいたって十分な数のライブはやれないし、長い目で見た場合、それじゃバンドを続けていくことは難しいだろう。

——オーストラリアではデス/ブラック系のヘヴィ・メタルの人気の高いと聞いたのですが、それは本当ですか?

S: アンダーグラウンドで熱狂的なファンを

掴んでいるのは確かだね。というのも、その手のファンはグランジ・ムーヴメントの時だって見向きもしなかったし、あのブームが去った後はグランジ・ファンだった連中がデス/ブラック系に流れたんだ。

——現在のオーストラリアのメタル・シーン、あるいはロック・シーンでは、どのバンドが一番人気があるのですか?

S: JETはあらゆる人々を虜にしているよ。今のところ、あそこまで人気のあるバンドは他にいない。彼らの「GET BORN」は傑作だね!

——オーストラリアのロック・シーンに問題があるとすれば、それはどんなことだと思いますか?

S: 大きな原因の1つがレコード会社だ。彼らはこれまでロクでもないアーティストに大金を注ぎ込んできたのに、今や新しい才能にあまり金をかけようとしない。僕に言わせれば、即席ヒットばかり狙ってるレコード会社はバカだね。彼らはアーティストを育てることでレコード会社の体力も付いていくということが判らないんだ。目先の金と流行を追い掛けてばかりいてさ。オーストラリアでは、バンドを手掛けるよりもTVドラマの人気俳優にクダラナイ曲を歌わせる方が簡単に金儲けが出来るとだね。あの「AUSTRALIAN IDOL」っていう酷い番組を何とかしてくれよ! 毎回同じアホくさいパターンで、胸糞悪くなるね。そうしたことに加えて、オーストラリアではバンドの数に対してプレイ出来る場所が少ないし、観に来てくれる客の数も少ない。まあ、そんな状況でもオーストラリアからは良いバンドが今でも出てきているようだけだね。 ■■



▲BOSS



▲HEAVEN